

平成23年度

文京区アカデミー推進計画  
進捗状況評価

平成24年12月

文京区アカデミー推進協議会

平成23年度文京区アカデミー推進計画進捗状況評価について	1
<b>I 生涯学習</b>	
1 いつでも、どこでも、だれでも学習や活動ができる機会の提供・充実	2
2 一人ひとりの学習や活動を支えるための情報提供、相談体制の整備・充実	3
3 区民・団体の主体的な活動の支援	4
【生涯学習分野評価の総括】	5
<b>II スポーツ</b>	
1 スポーツのきっかけづくり	6
2 スポーツを楽しむ環境づくり	6
3 スポーツ観戦の魅力向上	7
4 スポーツ指導者の育成	8
【スポーツ分野評価の総括】	9
<b>III 文化芸術</b>	
1 だれもが文化芸術に親しむことのできる機会の充実	10
2 文化芸術活動を豊かにするための情報提供、相談体制の整備・充実	11
3 「文の京」の文化や歴史を未来に伝える仕組みづくり	12
【文化芸術分野評価の総括】	13
<b>IV 観光</b>	
1 まちあるきを中心とした資源の発掘・活用・創出	14
2 まちあるきや交流のための環境づくり	14
3 観光まちづくりのための情報発信	15
4 観光まちづくりのための人材育成と体制づくり	17
【観光分野評価の総括】	18
<b>V 国際交流</b>	
1 国際理解を進める機会づくり	19
2 国際交流を進める機会づくり	19
3 外国人が快適に暮らせる環境づくり	21
【国際交流分野評価の総括】	22
<b>VI 分野別横断プロジェクト</b>	23
【総 評】	24
<b>資 料 編</b>	25

## 平成23年度文京区アカデミー推進計画進捗状況評価について

平成23年3月に策定された文京区アカデミー推進計画は、その計画を総合的・効率的に実施していくため、「文京区アカデミー推進協議会」を設置して、毎年進行管理を行って、その実効性を確保するものとしている。

そのため、平成24年10月に「文京区アカデミー推進協議会」を設置し、平成23年度の進捗状況について評価を行った。

協議会では、まず、評価方法について検討した。評価は、個別の事業について行うのではなく、計画の体系の5つの分野における分野別目標ごとに行うこととした。それらの目標を実現するための基本的な方向に沿って実施した平成23年度の事業の実績をもとに、分野別目標ごとに取組状況の評価をまとめ、今後の計画の推進に向けた提言を審議するものとした。

第1回会議及び第2回会議においては、平成23年度の実績について、事業の進捗状況や事業化への課題等を確認して、各委員から出された意見・要望等について審議しながら、評価作業を進めた。評価については、数値等による評価ではなく、委員から意見・評言を協議会としてまとめることにより評価を行うこととした。

第3回会議においては、各委員から出された意見・要望等を整理し、協議会の評価として取りまとめた。最後に5つの分野それぞれと、全体について、協議会での審議を踏まえた学識経験者の意見を付記することとして、平成23年度の文京区アカデミー推進計画の進捗状況評価とした。

### 平成24年度 文京区アカデミー推進協議会経過

	開催日	主な検討内容
第1回	平成24年10月29日	・評価方法及び評価スケジュールについて ・平成23年度取組状況報告書について
第2回	平成24年11月26日	・各委員から提出された意見について ・協議会としての評価について
第3回	平成24年12月17日	・協議会としての評価について

## I 生涯学習

### 1 いつでも、どこでも、だれでも学習や活動ができる機会の提供・充実

#### [取組状況の評価]

生涯学習の分野別目標に沿って、文京区及び指定管理者（公財）文京アカデミーを通じて多彩な事業を行い、内容も充実している。大学との連携による生涯学習の推進も進められている。保育室の設置、手話通訳等の取組、e-ラーニング等の講座も行われており、誰もが学習しやすい仕組みづくりに一定の配慮もなされている。また、図書館サービスも充実している。

#### [課題と今後の対応・方向]

若年層や勤労層を惹きつける方向性で、講座内容のより一層の充実を図るとともに、提供情報の一元化に取り組み、より多くの方が意欲を持ち、参加できるよう工夫されたい。

#### [主な事業]

事業名	事業概要	取組状況
文京アカデミア講座	教養から実学まで学ぶ機会に関する区民の要求に応えるため、文京アカデミア講座を実施し、学習機会を充実する。	・文京アカデミア講座（民間教育業者委託講座、大学連携講座、自主企画講座）68 講座（地域 3 講座、文学 6 講座、歴史・社会 14 講座、芸術 13 講座、くらし 16 講座、語学 7 講座、健康・スポーツ 9 講座）
文京 e-ラーニング	外出が困難な障害者や高齢者などのほか、時間に制約のある社会人などを対象に、当該年度の特定の講座を自宅で閲覧することができるシステムを日本女子大学に委託して構築する。	・学長講演会、特別公開講座、メセナ講座等から計 3 講座をインターネットで配信（18 年度より実施累計 18 番組）
図書館の運営	平成 22 年 4 月より真砂中央図書館を除く 7 館 3 室が指定管理者制度の導入による図書館運営となり利用者サービスの向上を図る。	・開館日の拡大、開館時間の延長を実施、各行事実施の充実

## 2 一人ひとりの学習や活動を支えるための情報提供、相談体制の整備・充実

### [取組状況の評価]

学習情報は、区報、ホームページ、ケーブルテレビ、(公財)文京アカデミーの機関紙、ホームページ等、様々な手段で発信されており、またポスター等の掲示場所も人目につくようによく工夫されている。また、図書館施設の充実にも力を入れられており、大変よい。

### [課題と今後の対応・方向]

区と(公財)文京アカデミーのそれぞれの媒体の統合的な情報発信、デジタルメディア、ソーシャルメディア等による情報発信にも一層取り組まれない。また、学習相談については、生涯学習一日体験フェアにおいて一部行われているが、アカデミー推進計画期間内に相談体制を充実されたい。

### [主な事業]

事業名	事業概要	取組状況
区民プロデュース講座企画者に対する相談	区民プロデュース講座企画者に対して企画改善提案に向けた学習相談を実施。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3月2日 一日体験フェアでの相談件数13件</li> <li>・3月実施の企画書事前審査会での相談件数22件</li> </ul>
文京アカデミア講座案内、(公財)文京アカデミーHPによる講座・講演会案内及び申込受付	生涯学習に関する講座の開催期間前に講座案内、区報、(公財)文京アカデミー機関紙スクエアなどの活字メディアのほか、(公財)文京アカデミーHP内に講座案内を掲載。申込は、はがきのほか、インターネットからも受け付けている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講座案内4回発行</li> </ul>
IT図書館システムの運営(図書館オンラインシステムの運営)	図書館システムを更新して利用者サービスを拡充するとともに、業務の効率化を図るものである。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・従来からのインターネットによる利用者サービス(資料検索・予約・リクエスト・レファレンス・等)の他、新たに追加機能として、子供用の検索画面の提供やジャンル検索等の検索機能の充実、貸出資料の期間延長手</li> </ul>

		続き、予約情報の変更 手続き、新着資料のメ ール案内等の実施
--	--	--------------------------------------

### 3 区民・団体の主体的な活動の支援

#### [取組状況の評価]

団体間の連絡会の設置、人材育成に注力していることは、協働協治という基本構想の方向性からも大変良い取組みである。また、文の京地域文化インタープリター等の人材の活躍の場の確保も進捗している。

#### [課題と今後の対応・方向]

引き続き、育成した人材の活躍の場の充実に努めるとともに、資格取得者が活動の場に参加できるよう促していくことが必要である。

#### [主な事業]

事業名	事業概要	取組状況
区民プロデュース講座	文京アカデミア講座の一環として、区民の学習の成果を活かし、地域に根ざした生涯学習を推進するため、個人・NPO団体等が企画運営する講座を公募して実施する。	区民プロデュース講座 (後期3講座、後期Ⅱ7講座)
文京アカデミア生涯学習推進関係委員会、文の京生涯学習司、文京アカデミアサポーター	学習推進委員を区民から公募し、区民(委員)自らが講座等の企画・運営・支援に携われるような体制を作る(年間12回会議を実施)。また、講座の企画については文の京生涯学習司にも広く企画を募集している。 各講座の実施にあたっては、文京アカデミアサポーターの中から講座運営の担当者を公募している。	・文京アカデミア学習推進委員会(学識経験者1人、区民委員25人) ・学習推進委員企画講座4講座 (前期2・後期Ⅱ2) ・文の京生涯学習司企画講座1講座
生涯学習支援者の登用	「文の京地域文化インタープリター」「文の京生涯学習司」「文京アカデミアサポーター」など学習支援者の活動機会を設ける。	・文京アカデミア一日体験フェアの企画・運営 ・区民プロデュース講座企画書事前審査会の相談員 ・学習支援者企画講座 ・特別公開講座(特別公開講座「醍醐寺の声明を

		聴く」・森鷗外生誕 150 年記念特別公開講座／ インタープリター協力)
--	--	--

## 【生涯学習分野評価の総括】

アカデミー推進協議会会長（学識経験者）  
生涯学習分野担当 水越 伸

開催されている一連の講座の質、量とも大変に充実しており、関連団体、大学との連携なども大いに評価できる。個別の内容についてはぜひこの状況を維持、発展させていってほしい。

広報のための印刷物やインターネット・サービスなども充実している。また、区民・団体と密に連携をした人材育成、人材活用も図られており、今後も維持、発展させていってほしい。

数多くの講座が様々なかたちで開催されているために、全体を俯瞰的にとらえることが、区民にとっても文京区など主催者側にとってもむずかしい状態となっている。このことが情報提供や相談体制の課題として現れている。すなわち個別の活動はよいが、それらをどのように関連づけたり、類型化し、各種メディアを用いてよりアクセスしやすくしていくかを検討する必要がある。相談体制もまた、最終的には人間というメディアのあり方が問題であり、同様の検討が必要であろう。

## II スポーツ

### 1 スポーツのきっかけづくり

#### [取組状況の評価]

様々なライフステージに応じたスポーツ体験教室が実施され、また、指定管理者により、民間のノウハウを取り入れた各種事業が行われているとのことであり、今後の展開に期待する。また、スポーツをやってみたいと思っている区民が、区報やインターネット、掲示板などによる情報を基にして、場所や時間帯など各自の都合に応じて取り組めるようになっている。

#### [課題と今後の対応・方向]

スポーツのきっかけづくりという目標を十分に達成するためにも、より多くの方が意欲を持ち参加できるよう、情報の一元的な管理に取り組み、情報発信等の頻度、媒体、方法を一層工夫されたい。また、スポーツが苦手な人や高齢者等を引き出し、日頃から運動に親しむ区民層を広げていくとともに、子供から高齢者まで幅広い年齢層がスポーツに参加する機会を拡大するようなプログラムを積極的に展開されたい。

#### [主な事業]

事業名	事業概要	取組状況
地域スポーツ情報の提供	地域スポーツを普及・振興するため、地域スポーツ情報を提供する。	スポーツ交流ひろば実施予定のホームページ掲載、ひろば通信の発行。
スポーツ体験教室の開催	区民が気軽にスポーツを楽しめるよう、種目別・年代別等の初心者向けスポーツ教室を開催する。	初心者スポーツ教室、小中学生スポーツ教室、キンボールスポーツ教室。

### 2 スポーツを楽しむ環境づくり

#### [取組状況の評価]

スポーツ祭2013実施に向けてスポーツ施設の整備に重点的に取り組み、気持ちよくスポーツが楽しめる環境が整えられたことを評価したい。既存施設の利活用、多彩なプログラムの提供も進んでいる。また、指定管理者による、民間のノウハウを取り入れた各種事業についても一層充実を図られたい。

#### [課題と今後の対応・方向]

東京で実施されるスポーツ祭2013を背景とし、施設整備が行われた

こと。また、東京五輪に向けたオリンピックムーブメントの機運もあるの  
でこれを地域交流の活性化を図る機会として十分活用されたい。また、ス  
ポーツ交流ひろば等、利用可能な既存施設の利活用を工夫し、団体や子供  
対象以外の勤労層個人でも参加できる多様なプログラムを展開してほしい。

#### [主な事業]

事業名	事業概要	取組状況
スポーツ施設の整備	旧第五中学校体育館を改修し、区民のスポーツ施設として開館。 スポーツ祭東京 2013 の会場となる小石川運動場を JFA 公認人工芝に改修した。	・江戸川橋体育館 4月1日開館 ・小石川運動場 4月15日リニューアルオープン。
スポーツ活動への参加機会の充実	幅広い年齢層の区民の健康・体力づくりを推進するため、各種スポーツやレクリエーションに参加する機会を提供する。	・各種スポーツ教室、各種スポーツ大会、スポーツイベント、スポーツ交流ひろば、スポーツ団体等協働事業等
スポーツ交流ひろばの充実	既存スポーツ施設の有効活用を図り、地域における生涯スポーツ活動の活性化を推進する。	・実施校（小学校8校、中学校10校） ・プール一般開放（夏季：茗台中、昭和小） ・プール団体開放（夏季：小学校3校、中学校3校、対象：PTA、地区対、町会等）

### 3 スポーツ観戦の魅力向上

#### [取組状況の評価]

企業団体等との協働事業により、相当な実績を挙げている。日本サッカー協会、講道館、東京ドームというスポーツの殿堂が存在する恵まれたスポーツ環境を活かした取り組みが行われている。

#### [課題と今後の対応・方向]

青少年の健全育成の観点から、スポーツ選手等との人材交流を深められたい。さらに、子供から高齢者まで幅広い年代に向けた観戦機会の拡大等、区民ならではの特典を感じられるプログラムの開拓も検討されたい。

**[主な事業]**

事業名	事業概要	取組状況
企業団体等との協働事業	区内の参画団体が持つノウハウやネットワークを活用し、企業団体等との協働事業を実施、区民ニーズに合った事業を提供する	・プロ野球観戦（区民感謝デー） ・少年少女サッカー教室
パブリックビューイング	区民ひろばのスクリーンを利用して区民にスポーツ観戦の機会を提供する。	・ロンドン五輪予選観戦（女子サッカー）

**4 スポーツ指導者の育成**

**[取組状況の評価]**

スポーツ推進委員・スポーツリーダー等の組織体制が整備され、スポーツ指導者の育成や技術向上等に取り組んでいる。また、大学との連携による事業も行われており、今後の更なる事業展開に期待したい。さらに、ファミリースポーツデー事業は盛況であり、スポーツ指導者が区民と交流を図る機会ともなっている。

**[課題と今後の対応・方向]**

人材確保等の観点から、大学との交流・連携及び協力体制を一層強化されたい。また、現在の人材の更なるスキルアップにも引き続き取り組まれない。

**[主な事業]**

事業名	事業概要	取組状況
スポーツ指導者の育成	地域の生涯スポーツを普及・振興するため、各種スポーツ指導者を育成する。	・スポーツ指導者講習会（年2回）
スポーツ推進委員活動への支援	スポーツ推進委員への事業委託や研修会の実施等、委員活動に対する支援を推進する。	・ニュースポーツ教室等事業委託 ・実技研修会

## 【スポーツ分野評価の総括】

アカデミー推進協議会委員（学識経験者）

スポーツ分野担当 青木 和浩

スポーツ分野では4つの目標が設定された。各目標における評価や課題を述べさせていただく。

「スポーツのきっかけづくり」の基本的な方向は「スポーツに関する情報の発信と相談体制の整備」「スポーツへ参加する機会の提供」である。本年度の取り組みにおいては、様々なライフステージに応じたスポーツ体験教室などの情報を区報、掲示板等を用いて活発に発信がされていた。今後は、情報の一元化や発信方法の工夫などを更に積極的に取り組むとともに、幅広い対象者が運動に参加できる機会の提供の拡充を期待したい。

「スポーツを楽しむ環境づくり」の基本的な方向は「スポーツ施設の整備・充実」「既存施設等の利活用」「多様なニーズに対応するプログラムの提供」「スポーツを通じた地域交流の活性化」である。本年度は、スポーツ祭2013実施に向けてハード面での整備がなされていた。今後は、既存の施設利活用を増やし、多様なニーズに応えられるプログラムの充実を期待したい。また、スポーツ祭2013や東京五輪招致に関連したオリンピックムーブメントなどを活用した地域交流の活性化を目指していただきたい。

「スポーツ観戦の魅力向上」の基本的な方向は「プロスポーツ等団体との連携・協力」「スポーツ観戦機会の拡充」である。プロスポーツとの協働事業やパブリックビューイングの実施など、評価できる取り組みが見られた。今後は、より多くの区民が観戦できるような取り組みを期待したい。

「スポーツ指導者の育成」の基本的な方向は「スポーツ指導者等の育成と確保」「スポーツ指導者の技術等の強化」である。本年度は、スポーツ推進委員やスポーツリーダーによる研修会や活動が実施され、育成と強化が補完されている点は評価できる。今後は、新たな人材確保や産学との連携を強化し、スポーツ指導者の育成に励んでいただきたい。

アカデミー推進計画が策定された初年度ではあったが、各目標達成のために事業の拡充も見られ、おおむね良好であるという評価をしたい。今後は、他分野との連携や指定管理者制度などを積極的に利用し、スポーツを行う機会が少ない・苦手な人々が参画できるようなプログラムの実施を期待したい。

### Ⅲ 文化芸術

#### 1 だれもが文化芸術に親しむことのできる機会の充実

##### [取組状況の評価]

様々な講演会、発表会、演奏会、展示会等、文化芸術に接する多様な機会が設けられており、芸術鑑賞の機会、成果発表の場が非常に充実している。質も高く、歴史や文化を感じ取れる事業が多い。

##### [課題と今後の対応・方向]

区と（公財）文京アカデミーのそれぞれの媒体の統合的な情報発信、デジタルメディア、ソーシャルメディア等による情報発信にも一層取り組まれない。

##### [主な事業]

事業名	事業概要	取組状況
文化・芸術に親しむ発表会、大会等の実施	教養等に関する区民の学習要求に応える学習機会を充実する。	・歌壇・俳壇、俳句大会、絵画展、書道展、華道展、茶会、合唱のつどい、民謡大会、謡曲大会、日本舞踊のつどい、民踊のつどい、吟剣詩舞道大会、三曲のつどい、企画展、シビックコンサート、カレッジコンサート
文化・芸術に親しむ機会の提供	区及び（公財）文京アカデミーと事業提携を結ぶ、東京フィルハーモニー交響楽団及びシエナ・ウィンド・オーケストラの協力により文化・芸術の振興を図る。	【東京フィルハーモニー交響楽団】 ・響きの森クラシックシリーズ開催 年3回実施 [Vol. 36] 5月21日（土）実施 1,529人 [Vol. 37] 9月23日（金）実施 1,685人 [Vol. 38] 12月10日（土）実施 1,720人 【シエナ・ウィンド

		オーケストラ】 2月12日（日）実施 （コンサート） 1,623人
区内文化施設のネットワーク	区内博物館、美術館、庭園等、文化・芸術に関する施設を「文の京ミュージアムネットワーク」に加入してもらい、各施設の特色や個性を発信する。	・ミュージアムマップの作成、配付 ・合同イベント（ミュージアムネットフェスタ）の開催

## 2 文化芸術活動を豊かにするための情報提供、相談体制の整備・充実

### [取組状況の評価]

区報、ホームページ、ケーブルテレビ、(公財)文京アカデミーの情報紙、ホームページ等、様々な手段で発信されており、またミュージアムネットによる情報提供も行われており、区民がその興味や関心に応じて芸術鑑賞なし、芸術活動に参加できるよう、豊富な媒体で情報提供がなされていることを評価する。

### [課題と今後の対応・方向]

若年層、勤労層へのアピールを強化するため、デジタルメディア、ソーシャルメディア等による情報発信に一層取り組まれない。また、文化芸術活動に係る相談については、生涯学習一日体験フェアにおいて一部行われているが、アカデミー推進計画期間内に相談体制を充実されたい。

### [主な事業]

事業名	事業概要	取組状況
ミュージアムフェスタ 2011	区内にある博物館・美術館・庭園など35施設を結ぶ「文の京ミュージアムネットワーク（通称、文京ミュージアムネット）」の合同イベント。各施設が持つ文化的資産や歴史的資産を紹介する。	・開催：12月14日 参加館：12館 来場者数：628名
区民プロデュース講座企画者に対する相談【再掲】	区民プロデュース講座企画者に対して企画改善提案に向けた学習相談を実施。	・3月2日、一日体験フェアでの相談件数13件 ・3月実施の企画書事前審査会での相談件数22件

### 3 「文の京」の文化や歴史を未来に伝える仕組みづくり

#### [取組状況の評価]

森鷗外生誕 150 年を契機として事業に取り組まれたことに伴い、地域文化インタープリター等の人材の活用も進捗している。さらに、映像資料調査・保存事業、森鷗外記念館の開館等の取り組みは、「文の京」の文化や歴史を未来に伝える仕組みづくりに資するものとして評価する。

#### [課題と今後の対応・方向]

森鷗外生誕 150 年に伴い、集中して事業が行われたため、「文の京」の文化や歴史を未来に伝える仕組みづくりの良い契機となった。今後も、文京区ゆかりの文人や豊富な文化資源を活かした事業展開をされたい。また、文化芸術を楽しむ区民を増やすため、若年層向けの取組みの充実が望まれる。

#### [主な事業]

事業名	事業概要	取組状況
企画展	インタープリター等の人材を活用し、区の文化事業に活かしていく事業を展開していく。	・平成 24 年度森鷗外企画展の準備のために勉強会を実施。
区民プロデュース講座	文京アカデミア講座の一環として、区民の学習の成果を活かし、地域に根ざした生涯学習を推進するため、個人・NPO等団体が企画運営する講座を公募して実施する。	・区民プロデュース講座（後期 3 講座、後期 II 7 講座）
映像資料調査・保存事業	文京区の暮らしや街並みを記録した映像資料（主に 8 ミリ・16 ミリ）を調査、収集、保存し、地域映像アーカイブ整備を行う。	・8 mm・16 mmフィルム合わせ、計 44 本のフィルムをデジタル化 ・映像資料の内容にゆかりのある地域を会場とした巡回上映会を 3 回実施

## 【文化芸術分野評価の総括】

アカデミー推進協議会会長（学識経験者）  
文化芸術分野担当 水越 伸

催されている一連のイベントの質が高く、多様性もあることは大いに評価できる。これは文京区と区民らが年月をかけて文化・芸術関連の活動を充実させてきた成果だといえる。今後も地域特性を生かし、発展させていってほしい。

そうした中で平成23年度は、森鷗外生誕150周年にちなんだ諸活動が企画、実施されたことが特徴的な動きであった。文京区ゆかりの文化人、芸術家は数多く、一連の諸活動で得ることができたノウハウをぜひ他の機会にも生かしていってほしい。

情報提供や相談体制については、現状の行政的枠組みの中では健闘しているといえる。今後は、各種の情報ソースをインターネットやモバイル機器、ソーシャル・メディア等を無理なく活用して有機的に関連させたり、相談の機会をすでにあるイベントに関連づけて増やすなどの改善を図っていただきたい。

「文の京」の文化や歴史を未来に伝える仕組みづくりについては、森鷗外イベントなどで「楽しむ人」づくりには貢献できているものの、「活動する人・団体」への支援や「伝える人」の育成については、今後本格的に取り組まれるべきである。とくにこれまであまり文化・芸術に触れられてこなかった人々を取り込むことは依然として課題であり、文京区がリーダーシップを取りつつ、区内の学校、大学、NPO、企業などさまざまなプレイヤーと連携しながら発展させていくことを考えてよいのではないだろうか。

## IV 観光

### 1 まちあるきを中心とした資源の発掘・活用・創出

#### [取組状況の評価]

観光には回遊性が重要であり、文化的・歴史的な資源を数多く擁する観光コース開発が行われていることを評価する。また、文京区として力を入れてきた「文京ブランド構築」の一環として、平成23年度には文人銘菓の取り組みに着手したことを評価する。

#### [課題と今後の対応・方向]

情報発信は他分野と比べて強化が進んでいるものの、観光資源の発掘・保存・整理については努力の余地があると思われる。今後、文化・歴史分野との連携により、継続的かつ計画的に取り組まれない。

#### [主な事業]

事業名	事業概要	取組状況
観光ガイド事業	区民を中心としたボランティアの観光ガイドを育成し、まちあるきコースの開発と、案内を行う。	・ガイド:8名 ・モニターツアー等による研修活動 ・10月より案内を開始 定例5コース/まつり等でのガイド 計16回、参加者127人
観光土産品開発支援事業（文の京ゆかりの文人銘菓）	観光振興を進めるうえで重要な「食」の魅力に焦点を当て、観光土産となる食品等の開発を支援し、まちあるきなどの観光者に楽しんでもらうとともに、「文京区」の知名度向上を図る。	・事業の企画、募集要項の作成 ・募集開始（平成24年2月～）

### 2 まちあるきや交流のための環境づくり

#### [取組状況の評価]

案内標識は、交流のための環境づくりに不可欠であり、観光リーフレット等他の媒体との一貫性を点検しながら充実させるべきであり、案内標識等統一化の検討が行われたことは評価する。また、区が助成している各種イベントは、地域住民同士、住民と訪問者、訪問者同士の交流を促進するきっかけとなっている。

### [課題と今後の対応・方向]

交流の契機となるイベントの実施や助成は、今後も継続が望まれる。また、区内には大学などのコンベンション施設が立地していることから、区が掲げる MICE（会議、展示会等）誘致は重要であり、会議等でのリーフレット配布など簡単なことから進めてほしい。

### [主な事業]

事業名	事業概要	取組状況
案内標識等統一化計画の策定	区内全標識の実態を把握し、各所管とともに既存標識の集約・改修及び新標識の設置にかかるガイドライン等を策定する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 検討会 3 回開催</li> <li>・ 新案内標識モデルの設置（6 基）</li> <li>・ 文京区案内標識統一化計画（素案）の策定</li> </ul>
五大まつり助成	文京花の五大まつりの広告・宣伝経費等の補助を行い、まつりの振興と発展を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文京つつじまつり</li> <li>・ 文京あじさいまつり</li> <li>・ 文京菊まつり</li> <li>・ 文京梅まつり</li> <li>・ 文京さくらまつり</li> </ul> の各実行委員会に対する補助金の交付
観光リーフレット作成助成	区内の観光施設や名所・旧跡等を紹介するリーフレット「おさんぽくん」、食の文京ブランド100選を紹介する「おいしゅうございまっぷ」を作成する（日本語版・外国語版）。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作成部数</li> </ul> おさんぽくん： 計 89,000 部 おいしゅうございまっぷ： 計 65,000 部 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ リーフレットの中でまちあるきの際の心得を明示し、住民への配慮を呼びかけ。</li> </ul>

## 3 観光まちづくりのための情報発信

### [取組状況の評価]

既に観光ビジョンにおいて研究されてきた分野であるため、他分野と比較し、取り組みが進んでいる。メディアによる区のPRも、実現に向けて

推進されている。

**[課題と今後の対応・方向]**

デジタルメディア、ソーシャルメディアの一層の活用を進めてもらいたい。観光インフォメーションやリーフレット、ウェブサイトなど基本の項目については、引き続き充実に向けた取組を期待する。なお、リーフレットやウェブサイトは、一般の訪問者に加えて、旅行業者や学校等、団体の訪問者向けの視点に立った情報発信ができていないかも点検されたい。

**[主な事業]**

事業名	事業概要	取組状況
観光インフォメーション運営	シビックセンター1階の観光インフォメーションを運営する。また25階展望ラウンジにおいて、区内の映像情報の発信やリーフレットの配架を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文京区観光協会に管理・運営を委託し、9:30から18:00まで、ほぼ年中無休で開所。</li> <li>来所者数：27,239人</li> <li>相談件数：5,447件</li> <li>・25階ラウンジに映像設備を設置。</li> </ul>
フィルムコミッション事業	映像製作者を積極的に誘致し、ロケーション撮影を行うことで、メディアを活用した区の情報発信を行い知名度向上を図るとともに、ロケ地見学などの観光客を誘致し観光振興を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロケ撮影支援に関する勉強会の実施(3回)</li> <li>・ホームページでのロケ地情報の発信</li> <li>・ロケ撮影に関する問い合わせ対応(37件)</li> </ul>
ホームページ「文京の観光案内」の運営	文京区内の観光スポット(史跡、寺社、文化施設、庭園など)やイベント情報を区ホームページで紹介する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・掲載情報を「巡る」「憩う」「知る」「楽しむ」というカテゴリーに分けて整理・発信。</li> <li>・イベント情報等を区ツイッターと連動させて発信。</li> </ul>

#### 4 観光まちづくりのための人材育成と体制づくり

##### [取組状況の評価]

観光ガイドの養成など、人材育成が既に継続して行われていることを評価する。

##### [課題と今後の対応・方向]

人材育成や体制づくりは時間と手間を要するが、観光ガイドの養成を継続し、PRも一層進めてもらいたい。また、人材育成の裾野を広げるためには、小・中学生を含めて、観光に関心を持つ住民を増やしていく必要がある。地域の文化や歴史の整理を進め、観光の重要性に対する理解や地元に対する愛着を深めてもらいたい。

##### [主な事業]

事業名	事業概要	取組状況
観光ガイド事業 【再掲】	区民を中心としたボランティアの観光ガイドを育成し、まちあるきコースの開発と案内を行う。	・ガイド：8名 ・モニターツアー等による研修活動 ・10月より案内を開始 ・定例5コース／まつり等でのガイド ・計16回、参加者127人
観光協会観光振興助成	文京区観光協会の事業経費等の補助を行い、観光振興の発展と地域の活性化を図る。	・会報発行費、観光写真コンクール経費、事務局職員人件費などを補助。

## 【観光分野評価の総括】

アカデミー推進協議会委員（学識経験者）

観光分野担当 野口 洋平

分野別目標「1 まちあるきを中心とした資源の発掘・活用・創出」では、「観光ガイド事業」や「観光土産品開発支援事業（文の京ゆかりの文人銘菓）」など、「2 まちあるきや交流のための環境づくり」では、「案内標識等統一化計画の策定」や「五大まつり助成」、「観光リーフレット作成助成」など、「3 観光まちづくりのための情報発信」では、「観光インフォメーション運営」や「フィルムコミッション事業」、「ホームページ『文京の観光案内』の運営」など、「4 観光まちづくりのための人材育成と体制づくり」では、「観光協会観光振興助成」などの事業が実施された。

既存事業の継続および充実とともに、新たな取組や将来に向けた検討も行われるなど、順調かつ充実したスタートを切ったといえる。例えば、「文京ブランド」の構築については、従来も観光協会の取組や区の助成事業があったが、新たに「文人銘菓」開発などさらなる展開が期待される。

また、観光ガイドや観光リーフレット、フィルムコミッション、ホームページの事業など、観光分野の現代的課題についても積極的に対応しようとしている点が評価できる。

一方、課題としては、①各事業の優先順位の検討と②各事業間における連携が十分とはいえなかった点を指摘することができる。

①については、例えば情報発信や「文京ブランド」への取組が充実しつつあるのに対し、観光資源、MICE、組織・団体マーケットについては、よりいっそう関心を高めていく方策が急がれる。事業によって目標達成に必要な時間や手間が異なるため、年度内、複数年度内における事業の優先順位について検討すべきである。

②については、観光分野の事業が非常に複合的であることから、各事業間や実施主体間の情報交換や協働、人材交流などの取組が成果を最大化するのにつながる。さらに、生涯教育など他の4分野との連携も大変有効である。

観光分野で重要なのは、自分たちのまちを来訪者の目線で客観的にとらえ直す（知る、学ぶ、伝える）ことであり、地域におけるそうした雰囲気醸成が重要である。観光資源（人・物・コト）は一度失ってしまうとなかなか取り戻せないことなど、持続可能な仕組みを意識した展開が求められる。

そのためにも、推進計画にも示されているような地域や組織の枠を超えたネットワークづくりが最優先されるべきであろう。

## V 国際交流

### 1 国際理解を進める機会づくり

#### [取組状況の評価]

国際交流フェスタ、国際理解の促進に係るセミナー等、様々な取り組みがされており、取り組みは評価できる。

#### [課題と今後の対応・方向]

区民の国際理解を進めるには、外国人と触れ合う機会を多く設定することが効果的であり、機会を更に増やしてもらいたい。また、在住外国人の多くは中国・韓国出身であることを念頭において、機会づくりを進めるべきである。

#### [主な事業]

事業名	事業概要	取組状況
国際理解推進講座	主に日本人区民を対象に、国際理解を進めるための機会を提供する。	・「一人一人の国際貢献～フェアトレード～について考える」 (11月27日) (東洋大学との連携により開催。参加者44人)
地域活動連携事業	地域で活動する団体と連携し、地域で行われている事業に外国人が参加する機会を提供する。日本人区民と外国人区民の交流と相互理解を促す。	・「文の京こどもまつり」(青少年対策地区委員会主催)への参加(11月13日) (子ども向け英語コーナー) ・「浴衣着付け体験会」(7月30日) 参加者14人

### 2 国際交流を進める機会づくり

#### [取組状況の評価]

国際交流フェスタやガイドツアー等の交流事業が継続的に実施されていることを評価する。また、姉妹都市カイザースラウテルン市との交流に加え、東アジアにおける新たな海外都市との交流も進捗し拡充が進められている。

[課題と今後の対応・方向]

交流の機会について、質量ともにさらに一層の充実が望まれる。

[主な事業]

事業名	事業概要	取組状況
国際交流フェスタ	外国人と日本人の文化を通じた友好交流及び相互理解推進を図る。	2月18日(土)実施 ・伝統文化体験、楽器演奏・舞踊、物販、情報コーナー、留学生との交流会など。 ・参加団体35、来場者約1,000人 ・公募区民ボランティアが初めて参加
英語観光ガイドツアー	区の国際化推進及び観光振興を目的として、「英語観光ボランティア育成講座」修了者が、外国人等を対象として観光ガイドを行う。	・ガイド：25人 ・第1回(11月23日)小石川後楽園ほか 参加者17人 ・第2回(3月31日)護国寺ほか 参加者13人
姉妹都市との交流	区の姉妹都市であるカイザースラウテルン市との交流を充実させる。中学生及び高校生を対象として、姉妹都市カイザースラウテルン市とのホームステイ生徒交換を行う。	・「姉妹都市交流コンサート」(1月28日)姉妹都市在住ピアニストによるドイツ音楽の演奏及び市の紹介 参加者311人 ・カイザースラウテルン大学と区内大学との関係構築支援 ・カイザースラウテルン市へ、文京区生徒4人を派遣(7月22日～8月2日)

### 3 外国人が快適に暮らせる環境づくり

#### [取組状況の評価]

外国語生活相談、区内団体の支援など、基本的な方向性に沿った取り組みがなされているが、環境づくりというには不十分であり、更なる充実を期待したい。

#### [課題と今後の対応・方向]

外国人が快適に暮らせるようにするためには、生活に不自由さを感じさせないことが大事であり、そのための取り組みは、質量ともに一層の充実が望まれる。大学や既存の支援団体との連携、他分野事業への国際交流の相乗りなど、複合的に考える必要がある。

#### [主な事業]

事業名	事業概要	取組状況
外国人の日常生活支援	区内で活動する各種団体と連携し、日本語の習得や各種相談など、外国人区民の日常生活支援を進める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区内団体による「外国人のための専門家相談会」を後援（6月19日）</li> <li>・区内NPOによる「日本語交流会」を後援（11月23日）</li> </ul>
地域活動連携事業【再掲】	地域で活動する団体と連携し、地域で行われている事業に外国人が参加する機会を提供する。日本人区民と外国人区民の交流と相互理解を促す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「文の京こどもまつり」（青少年対策地区委員会主催）への参加（11月13日）（子ども向け英語コーナー）</li> <li>・「浴衣着付け体験会」（7月30日） 参加者 14人</li> </ul>

## 【国際交流分野評価総括】

アカデミー推進協議会副会長（学識経験者）  
国際交流分野担当 久松 佳彰

平成23年度は国際理解を進める機会づくり、国際交流を進める機会づくり、そして外国人が快適に暮らせる環境づくり、という三分野で活動が展開された。

三分野それぞれで様々な取組がなされており、その取り組み自体は評価できる。講座、まつりでのコーナー設置、国際交流フェスタ、英語観光ガイドツアー、姉妹都市との交流、そして外国人の為の相談会などである。

一方、国際理解と国際交流を進める機会を更に増やすことが重要である。また、外国人が快適に暮らせる環境づくりでは、質量ともに一層の充実が望まれる。

アカデミー推進計画には、「地球規模で人やモノ、情報等の交流が進み、文京区においても外国人が増えている状況であり、その特徴として区内の大学等で多くの留学生や外国人研究者が学んでいることが挙げられる」(p.67)と記載されている。また、オリンピック招致などの更なる国際化の動きの中で、質量ともに一層の充実を深める為には、人の手が必要であり、現在係長1名、非常勤職員1名という少人数で事業を行っているアカデミー推進部の国際交流担当を増員することが望ましい。

増員が可能となれば、次のような具体的な施策を行うことも可能になるであろう。例として三点あげる。まず、国際理解を進める機会づくりにおいては、アカデミー推進計画に書かれている「区内産業と連携した交流・ネットワークづくり」(p.69)を進めることができる。区内産業の先端技術等を外国人や海外に向けてPRすることを目的として、外国人等が見学・学習できる事業などを企画・開催できるであろう。

次に、国際交流を進める機会づくりにおいては、「アカデミー推進計画」に書かれている「(仮称)国際交流サポーターの育成と支援」(p.71)ができるであろう。これは区等がこれまでに育成したインタープリターやボランティアの修了者等について、国際交流を担う区民として、国際交流の機会での活動を促すものである。

更に、外国人が快適に暮らせる環境づくりにおいては、「アカデミー推進計画」に書かれている「交流拠点の充実」(p.72)を更に進めることができるであろう。すでに東アジアにおいて新たな海外都市との交流も進捗しているが、これをさらに進めることが可能になるであろう。

## VI 分野別横断プロジェクト

### [取組状況の評価]

生涯学習・文化・観光・国際交流等各分野は相互に補完し合うものであり、平成23年度には主に森鷗外等のテーマによって分野別横断プロジェクトが行われた。このように一つの統一テーマに向けて各分野が一致して取り組むことで事業の魅力や対外的なアピールも増すものと思われる。今後も横断プロジェクトを促進されたい。

### [課題と今後の対応・方向]

分野ごとに実施する事業は、集中して奥が深い内容について追求することができる利点があるが、ひとつのテーマに向けて、全分野が関連する部門を担当し、広げていくことも区民の豊かな生活への向上につながる大切な視点である。区民や関係団体等から協力を得て、森鷗外その他地域性のあるテーマを決め、重点的に取り組まれることが望まれる。また、プロジェクトの担い手として、区民や団体等に対して積極的なPRをするなど、プロモーションをより充実していくことを検討されたい。

### [主な事業]

分野	計画策定時想定していた事業例	取組状況
生涯学習	森鷗外の作品を読む会の開催、森鷗外を知る会の開催 等	「鷗外の都市（東京）改造論」（山崎一穎）ほか5回の講演会を実施した。
文化芸術	「（仮称）森鷗外記念館」の新設、森鷗外ゆかりの文人などとの多様なテーマの企画展示の開催 等	鷗外「肖像画」展示ほか2件の企画展を行った。
観光	森鷗外作品に出てくる区内の場所をめぐるツアー実施 等	森鷗外を含む文京区にゆかりのある文人にちなんだお菓子の開発を支援する、実施準備会議を開催。募集要項を作成し、24年2月から募集を開始した。

## 【総 評】

アカデミー推進協議会会長（学識経験者）  
水越 伸

平成22年度に文京区アカデミー推進計画が作成され、翌平成23年度はその計画に基づいてさまざまな活動、イベント、講座などが実施されたということになる。すなわちこの年度は、5年度間の最初の年度であったわけであり、推進計画で示された目標が最初の年度にすべて達成されることはありえず、いわばスタートを切った年として位置づけられるべきだろう。

平成23年度の活動全体を通じていえることは、おおむね高い質の多様な活動、イベント、講座が実施されているということである。すなわち文京区と区民がこれまで培ってきた各種活動は十分に充実しているといえる。

一方で、さまざまな活動を俯瞰できるような情報提供の体制とメディアの活用のしかた、より多くの関係者の協力のもとで人材育成や人材活用を行う取り組み、各領域を横断するプロジェクトや文京区らしさのアピールなどについては、今後本格的な取り組みがなされるべきであろう。すなわちいまある各種活動を結びつけ、俯瞰し、広げていく新たな試みを期待したい。

アカデミー推進計画には、「つくる」「伝える」「つなぐ」「活かす」そして「協働する」という5つの行動が必要なことがらとして示されている。平成23年度の活動全体を見るならば、「区の魅力を体感できる多様な機会を「つくる」」こと（行動1）、「個人や団体の主体的な活動を「つなぐ」」こと（行動3）は、かなりの程度達成されている。今後は、「さまざまな媒体を活用し、情報を分かりやすく「伝える」」こと（行動2）、「豊富な知識や経験を持つ人材を「活かす」」こと（行動4）、「計画を推進する多彩な主体と「協働する」」こと（行動5）への取り組みが、重要となってくるだろう。

なお、次年度以降、この文京区アカデミー推進協議会がどのようなかたちで各種活動を把握し、評価、提言していくかということ自体についても、建設的なかたちで検討をしていただきたい。

## 資料編

---

文京区アカデミー推進協議会設置要綱

平成24年度 文京区アカデミー推進協議会委員名簿

アカデミー推進協議会委員の意見要望

## 文京区アカデミー推進協議会設置要綱

18文区ア第118号 平成18年6月2日区長決定

21文アア第350号 平成21年9月1日改正

23文アア第701号 平成24年2月20日改正

24文アア第154号 平成24年6月1日改正

(設置)

第1条 文京区アカデミー推進計画の進行管理を行うため、文京区アカデミー推進協議会(以下「協議会」という。)を設置する。

(所掌事項)

第2条 協議会は、次の事項について協議・検討を行う。

- 一 文京区アカデミー推進計画の進行管理に関すること。
- 二 文京区アカデミー推進計画の推進に必要な事項

(構成)

第3条 協議会の委員は、文京区アカデミー推進計画策定協議会の委員(公募区民等を除く)であった者、公募区民等から文京アカデミー推進本部設置要綱第3条に規定する本部長(以下「本部長」という。)が委嘱する者16人以内をもって構成する。

(任期)

第4条 協議会の委員の任期は、2年以内とし、委員が欠けたときにおける補欠の委員の任期は前任者の残任期間とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 前項に規定する委員の任期は、委嘱した日の属する年度の4月1日からとする。

(会長及び副会長)

第5条 協議会に会長及び副会長各1人を置く。

- 2 会長は、委員の互選により選任する。
- 3 会長は、会務を総理し、協議会を代表する。
- 4 副会長は、委員のうちから、会長が指名する
- 5 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときはその職務を代理する。

(招集)

第6条 協議会は、会長が招集する。

(関係者の意見聴取)

第7条 協議会は、必要があると認めたときは、それぞれ委員以外の者を会議に出席させて意見を聴き、又は助言を受けることができる。

(庶務)

第8条 協議会の庶務は、アカデミー推進部アカデミー推進課において処理する。

(委任)

第9条 この要綱に定めるもののほか、協議会に関し必要な事項は、会長が定める。

付 則（平成18年6月2日付18文区ア第118号）

この要綱は、平成18年8月1日から施行する。

付 則（平成21年9月1日付21文アア第350号）

この要綱は、平成21年9月1日から施行する。

付 則（平成24年2月20日付23文アア第701号）

この要綱は、平成24年2月20日から施行する。

付 則（平成24年6月1日付24文アア第154号）

この要綱は、平成24年6月1日から施行する。

平成24年度 文京区アカデミー推進協議会委員名簿

	分野	氏名	団体名・役職等
1	学識経験者	水越 伸	東京大学大学院情報学環教授
2	学識経験者	久松 佳彰	東洋大学国際地域学部国際地域学科教授
3	学識経験者	青木 和浩	順天堂大学スポーツ健康科学部 スポーツ健康科学研究科准教授
4	学識経験者	野口 洋平	杏林大学観光交流文化学科准教授
5	生涯学習関係団体	梶田 慶輝	文京アカデミアサポートの会事務担当役
6	スポーツ団体	田辺 武之	文京区体育協会副理事長
7	芸術団体	檜崎 華祥	文京区書道連盟理事長
8	観光振興団体	白井 圭子	文京区観光協会副会長
9	観光振興団体	松本 泰之	公益財団法人東京観光財団専務理事
10	国際団体	森岡 隆	文京キーウィクラブ会長
11	区民	枝川 千波	区民公募委員
12	区民	小林 博	区民公募委員
13	区民	中村 成一	区民公募委員
14	区民	野村 宣子	区民公募委員
15	区民	東田 英輔	区民公募委員
16	行政	曳地 由紀雄	アカデミー推進部長

# アカデミー推進協議会委員の意見要望

## 第1章 生涯学習分野

### 分野別目標 1 いつでも、どこでも、だれでも学習や活動ができる機会の提供・充実

評価	意見・要望	提案・課題等
<p>【肯定的評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>よくできている</li> <li>コンテンツの数はほぼ十分</li> <li>充実している</li> <li>評価する</li> <li>目標、基本的な方向性に沿った取り組みが進められている。</li> <li>内容も大変充実</li> <li>個別の活動はしっかりとなされている</li> <li>公益財団法人文京アカデミーが着実に計画を推進していることを評価したい。</li> <li>託児システムなど、対応がなされており評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いきいきアカデミア講座は面白い取組み。</li> <li>大学による講座や事業を含め、多くの学習や資格の取得ができる機会があり、よい</li> <li>保育室や手話、インターネットによる配信など、配慮もされていることもよい</li> <li>図書館を利用するにあたって、司書などの職員の対応も親切かついいねいで、多くの本を借りたり読みたくなったりする気持ちにさせる雰囲気がある。配架や飾りなどにも工夫がなされている。</li> <li>これから学習したい区民の方々への、学習機会の入門情報の提供と講座へのお誘いも推進策も考慮が必要</li> <li>事業内容、開催日時から、高齢者や子供の参加が多いのではないだろうか。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①講座の内容でも中間層、若者層を惹きつけてほしい。職場で使える実践的なもの、例えば基礎ワードやエクセル以上の、あるいは若者にアピールしそうなスイーツコラボ企画等の講座、携帯アプリ講座等。資格取得支援により重点投資をしてはどうか。</li> <li>②魚のおろし方教室のような体験型の講座へのニーズが高まっているので、一層の充実を。</li> <li>③e-ラーニング講座の提供内容を拡大</li> <li>④テーマによっては、区外に呼びかけて受講者を集め、文京区を知ってもらう機会としてもよいのではないかと。</li> <li>⑤託児システムは、生活協同組合等が行っている子育て支援事業などと連携して効率的かつ効果的な事業推進を望みます。</li> <li>⑥区民のだれもが主体的に参加・活動の意欲をもっているとは限らない。主体的に参加・活動の意欲を持たない人たちを取り込む対策も必要なのではないのか。</li> <li>⑦講座の内容に応じてターゲット層を決め、その層がより参加し易くしてはどうか。</li> <li>⑧大学や企業との協同を進め、大学や企業の施設や人員を活用した連携セミナーのような取組みの一層の展開が望まれる。</li> <li>⑨サポーター制度を設け、SNS活用、ブロガーとの連携など、ロコミの発信を行ってはどうか。</li> </ol>

### 分野別目標 2 一人ひとりの学習や活動を支えるための情報提供、相談体制の整備・充実

評価	意見・要望	提案・課題等
<p>【肯定的評価】</p> <p>目標、基本的な方向性に沿った取り組みが進められている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HP、広報紙、ケーブルテレビ等様々な手段で情報を発信しており、HPを閲覧、チャンネルをケーブルテレビに、広報誌を手にとれば実にたくさんの情報が発信されている</li> <li>・ポスター等も目にする機会も多く、掲載場所も工夫されており、とてもよい。</li> <li>・学びを通して教養を高めたいと思っている区民が、興味や関心に応じて、区報や講座案内、ホームページ、区の施設にある掲示板などによる情報を基にして、気軽に取り組むことができる環境にあるのはよいと思う。申し込みにおいても、ホームページを活用する事ができ、便利であることから、さまざまなことに活用できるよう一層充実させるとよいと思う。</li> <li>・情報提供の媒体は、現状の「区報・スクエアー・ホームページ・パンフレット」で十分である。</li> <li>・HPの活用が少ない</li> <li>・学習拠点インフラ整備としては、図書館施設の充実が最も望まれると思う。</li> <li>・現況の体制では情報提供が「発信」に偏っているように感じる。</li> <li>・区報、(財)文京アカデミーの機関誌など印刷媒体はおおむねしっかりやっていると思う。</li> <li>・(財)文京アカデミーのウェブサイトもよくつくってある。ただし文京区役所からアカデミーのウェブサイトへのリンクがわかりにくい。モバイル端末などデジタル・メディアへの対応にもっと力を入れていく必要がある。できれば印刷媒体と統合的にパブリッシュするしくみをつくっていくとよい。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①個人的には「文の京」としては、もっと大規模な図書館が複数あって良いと思う。中期的にフラッグシップ的な大規模図書館整備への集中投資は考えられないか？</li> <li>②従来の媒体に加え、ソーシャルメディアを活用した情報提供を検討してはどうか。</li> <li>③区民が悩む学習相談に個人ごとに対応する体制(月2～3回)の窓口相談体制が必要か。(現在は一日体験フェア年2回開催時対応)</li> <li>④幅広い年代層を対象としたメディアのあり方を考えた場合、インターネット主体の現状を踏まえて「ラジオ」という媒体はどうだろうか。たとえばコミュニティFM局によるきめ細かな地域情報発信などが効果的と考える。また、災害時の連絡伝達にかなり有効と思われます。</li> <li>⑤HPだとヒット数、アクセス数で期間ごとに検討していると思いますが、掲載後の効果分析が必要だと思います。また、民間紙、局との連携など、能動的な広報があるとよい。</li> <li>⑥パソコンを使わない、区報を読まない、人付き合いが少ないなど、積極的に情報集めをしない人たちも多いと思うので、人を介した呼びかけなどできっかけづくりをしたらいいのではないかと。</li> </ol>

## アカデミー推進協議会委員の意見要望

### 分野別目標 3 区民・団体の主体的な活動の支援

No.	意見・要望	提案・課題等
<p>【肯定的評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・協働協治という基本構想の方向性からも、大変積極的な良い取り組みと思う。</li> <li>・目標、基本的な方向性に沿った取り組みが進められている。</li> <li>・おおむねよくやられている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区民の主体的な活動を推進するため、生涯学習司や地域文化インタープリター、さらには、文京アカデミアサポーター等、人材養成に注力していることは評価できる。</li> <li>・「主体的な活動」にリンクする部分が少ない</li> <li>・ここまで主体的な取り組みとなると、一定人数以上には参加の裾野が広がらない気がする。</li> <li>・細かいことだが(4)人材活用の推進にある「大学の人材の審議会での活用」という物言いには注意をしていただきたい。大学人が地域貢献をすることは一般的に望ましいが、必ずしも審議会に名を連ねる必要はなく、是々非々で対応すべきニュートラル・コーナーにいる。どんな審議会にでも顔を出すということがよいわけではなく、役所の便利屋であつてもいけない。誤解を生まない文言に修正してほしい。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①生涯学習活動を支援する人材の「育成講座」の開講は、今後も継続して必要である。</li> <li>②区民・団体の主体的な活動の支援において、他の自治体で参考となる取り組みはないか？</li> <li>③生涯学習司や地域文化インタープリター、さらには、文京アカデミアサポーター等その活動の場の確保が課題となっているが、活動の機会を行政が用意するのではなく、資格取得者が自ら動いて活動の場を作り出していくという、自立の方向が望ましい。</li> <li>④受講後の人材は、組織(団体等)運営に任せる(依頼)ことで良い。なを、事務分担(特に広報)については支援(予算化)分担が必要。</li> <li>⑤アカデミアサポーター、生涯学習司の活動の場をもっと広げていただき、気軽に問い合わせができる窓口があるとよいと思います。</li> <li>⑥生涯学習司や地域文化インタープリター、文京アカデミアサポーター、青少年リーダーの方々が活動できる場を多く設定し、そこで実力を発揮し、活躍されることを期待したい。</li> <li>⑦現有図書館の開館日を拡大・時間の延長を実施が実現しているが、利用員数他満足アンケート等で再評価が必要である(要求ニーズの真意)。</li> <li>⑧活動団体・区民の活動事例を定期広報媒体でPR紹介が必要。</li> </ol>

アカデミー推進協議会委員の意見要望

第2章 スポーツ

分野別目標 1 スポーツのきっかけづくり

評価	意見・要望	提案・課題等
<p>【肯定的評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標、基本的な方向性に沿った取り組みが進められている。</li> </ul> <p>【否定的評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・H22年度の事業内容と変わらない</li> </ul>	<p>・野球・サッカー・武道の中心という土地柄を有効に活用して、今後の国民体育大会やオリンピック等に積極的に関与する方向性に期待します。</p> <p>・文京区には、様々なスポーツ施設があり、年間70万人を超える大勢の区民が利用しており、評価できる。</p> <p>・スポーツをやってみたいと思っている区民が、区報やインターネット、掲示板などによる情報を基にして、場所や時間帯など各自の都合に応じて取り組めるようになっているのでよい。</p> <p>・スポーツ体験教室では、初心者や小中学生、親子を対象としており、将来、スポーツを続けようとする動機づくりにつながるようになると思う。</p> <p>・スポーツ推進委員・スポーツリーダーの組織体制が整備されての今後の活躍に期待します。</p> <p>・地域・町内会等学区に密着した活動の推進(開催日・内容)と広報(PR)の頻度を高めてほしい(区掲示板など)</p>	<p>①新しいスポーツ基本計画における取り組むべき施策(今後5年間に取り組むべき施策)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.学校と地域における子どものスポーツ機会の推進</li> <li>2.若者のスポーツ参加機会の拡充や高齢者の体力づくり支援等のライフステージに応じたスポーツ活動の推進</li> <li>3.住民が主体的に参画する地域スポーツ環境の整備</li> <li>4.国際競技力の向上に向けた人材の養成やスポーツ環境の整備</li> <li>5.オリンピック・パラリンピック等の国際競技大会等の招致・開催等を通じた国際交流・貢献の推進</li> <li>6.ドーピング防止やスポーツ仲裁等の推進によるスポーツ界の透明性、公平・公正性の向上</li> <li>7.スポーツ界における好循環の創出に向けたトップスポーツと地域におけるスポーツとの連携・協働の推進</li> </ol> <p>②競技によっては強豪実業団チームなどに依頼してスポーツ教室などを開いてはどうか。(例)全国規模の大会など参加時、試合終了後、同じ競技場内で卓球教室を開く等。</p> <p>③健康づくりの観点に立ったスポーツ振興を前面に出すことも必要。(例)区の健康診断結果をもとに、病気予防の観点から、軽い運動やスポーツへつなげるなどの取組み。</p> <p>④スポーツ交流ひろばは通信等、スポーツに関する情報がより気軽に入手できる方法、すなわち印刷媒体以外のデジタル・メディアの活用を今後、積極的にしていく必要がある。</p> <p>⑤民間施設と連携し、民間施設がもつネットワークを活用した、きっかけづくりの拡大ができるとうい。</p> <p>⑥スポーツ活動を「とくに必要とは思わない」と答えた人(主に高齢者)に対し、訪問機会のあるボランティアなどが日常生活の張りあい、仲間づくりなど、健康面だけではなく精神面でアドバイスして参加を促すような連携体制は採れないか。</p>

分野別目標 2 スポーツを楽しむ環境づくり

No.	意見・要望	提案・課題等
<p>【肯定的評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既存インフラを活用しつつ、バランスの良い施策がなされていると思う。</li> <li>・ハード面については、進んでいる</li> <li>・「スポーツ交流ひろば」など年間3万人を超える区民が利用しており、評価できる。</li> </ul>	<p>・「見るスポーツ」と「やるスポーツ」がバランスよく融合できるよう今後の事業展開に期待します。</p> <p>・旧第五中学校の体育館や小石川運動場の改修工事が完了し、きれいで使いやすく、気持ちよくスポーツが楽しめるようになった。</p> <p>・「スポーツ交流ひろば」は、無料で気楽に施設を利用して、スポーツに取り組めて楽しむことができ、しかも、仲間づくりや交流を図ることができることから、今後も充実させられるとうい。</p> <p>・小中学生が運動をする機会が設定されていてよいと思う。中学生は運動部活動に入部することで運動する機会が得られるが、小学生にはそのような機会がないので、子どもひろばはよい。中学生にとっては、部活動としての種目が少ないスキーや水泳をする機会があるので、よい。</p> <p>・各種目の区民大会の実施は、地域スポーツクラブの活性化の機会になっている。</p> <p>・優れたアスリートが当区から輩出される環境も整備されたい。</p>	<p>①ヨガ、エアロビクス、水泳などは、そこに行けばいつでも楽しめるというゆるさが必要ではないか。</p> <p>②スポーツが苦手な人や高齢者を引き出し、日ごろから運動に親しむ市民層を広げていくことが重要。</p> <p>③区民が健康の管理(体力づくり等)楽しむ仲間作りが重要</p> <p>④スポーツを楽しむきっかけ作り(スポーツの交流ひろば含む)のPRを高頻度で行い、拡大を図って欲しい。</p> <p>⑤国体の積極的なPR(例えば区のHPのトップページ、大量のポスター掲示)を行ってはどうか。</p> <p>⑥スポーツジムなどの民間の施設を有効に活用することを検討してはどうか。(例)経営者と共同して、平日に料金を抑えて、地元の高齢者や主婦の利用を促進するなどの取組みはできないか。</p> <p>⑦スポーツ交流ひろば等、利用可能な既存の施設を増やし、団体や子供対象以外にも、中間層個人でも参加できる多様なプログラムをもっと展開してほしい。</p> <p>⑧区内にある小中学校の体育館での「スポーツ交流ひろば」以外の夜間の使用については、各学校が管理しており、区民が公平に使用できるようなシステムを作る必要があると思う。</p> <p>⑨区として東京ドーム、講道館という著名な施設とタイアップした大会・イベントなどを行ってはどうか。</p>

## アカデミー推進協議会委員の意見要望

### 分野別目標 3 スポーツ観戦の魅力向上

No.	意見・要望	提案・課題等
【肯定的評価】 ・これまでも実績がある	<ul style="list-style-type: none"> <li>・五輪招致・オリンピックムーブメント、プロスポーツとの更なる連携を期待します。</li> <li>・子供向け以外にも、中間層でも参加できるプログラムの開拓(週末、夜間観戦等)も引き続き行ってほしい。</li> <li>・最高レベルのスポーツ選手の試合や練習などを直に見学できる取組みを一層増やしてほしい。</li> <li>・スポーツを実践している中学生にとっては、意欲や技能を高めるのによい機会であると考ええる。青少年の健全育成の面からの連携を図りながら広められるとよいと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①東京ドームシティに隣接するHUBの様なスポーツ(観戦)バーの誘致をしてはどうか(資金支援など)。</li> <li>②東京都のオリンピック誘致を積極的に支援してはどうか。</li> <li>③区内に著名なスポーツ団体や施設があるのだから、それらをもっとアピールするとともに、区民ならではの特典があるといい。</li> <li>④数多くの大学がある意味から文京区を大学駅伝の迂回コースにすることを考えたらどうか。</li> </ul>

### 分野別目標 4 スポーツ指導者の育成

評価	意見・要望	提案・課題等
【否定的評価】 現状維持という印象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しく、スポーツ推進委員・スポーツリーダーの組織体制が整備されての推進、今後の活躍に期待します。</li> <li>・スポーツ文化の基礎作りは重要なものなので、今後も継続して推進をお願いしたい。</li> <li>・ファミリースポーツデーには多くの区民が参加し、事業として盛況である。そこでのスポーツ指導者の活用は、区民との交流を図る機会としてよいと思う。</li> <li>・体育指導委員、スポーツリーダーの存在を初めて知りました。</li> <li>・スポーツ指導者の技術の向上は重要であると考えます。初心者に対する基礎・基本を指導する場面や上級者に対する最新の技術を指導する場面など、スポーツを実践している区民のニーズは多様で、奥が深いのが現状である。そこで、研修会の回数を増やしたり講師の人選を慎重にしたりして充実させる必要がある。若い指導者の開拓も必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①区内各大学のスポーツ教育関係の学部・学科、サークルと連携して有意義なことが出来ないか？</li> <li>②健康づくりのためのスポーツや高齢者にふさわしい運動を促進するという観点から、専門のスポーツ指導者の育成やスポーツ関連施設への配置が必要ではないか。</li> <li>③ターゲットを決めた具体的な育成事業などの検討が望まれます。</li> <li>④活動の場をもっと広げていただき、初心者でも気軽に問い合わせができる窓口があるとよいと思います。</li> </ul>

# アカデミー推進協議会委員の意見要望

## 第3章 文化・芸術

### 分野別目標 1 だれもが文化芸術に親しむことのできる機会の充実

評価	意見・要望	提案・課題等
<p>【肯定的評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>指定管理者を有効利用し、多くの機会を提供していると思います。</li> <li>内容的にも十分</li> <li>目標、基本的な方向性に沿った取り組みが進められている。</li> <li>個別のおおむねしっかり、よくやられていると思う。充実した内容である。</li> <li>文化芸術に接する多様な機会が設けられており、非常に充実していると思う。</li> <li>現行の区民の活動成果発表の場の提供が行われていることを評価したい。</li> <li>バラエティに富んだ様々な事業が実施されており、大変充実している。クオリティも高く、歴史や文化を感じ取れる事業が多く、評価できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>イベント情報などの情報発信もきちんとされていると思います。</li> <li>文化芸術はナマの現物を見ることこそ肝要。そういう意味で現物に触れる機会を多く設けるという方向性は正しい。</li> <li>子育て中の主婦、定年退職したシニア世代などは、町内会や老人会など地域のサークルに参加するのをためらう人が多いのではないかと。そういう人たちを取り込むために、たとえば「第九を歌おう」のような区を挙げてのイベントを開催できたらいいと思う。</li> <li>「文の京 文化発信プロジェクト」は、タイムリーなテーマで内容もよく、近隣の博物館で講演の内容を、見学を通して体験することができ、大変よいと思う。事業の中には、参加を希望する応募者が多数の場合には抽選となり、希望に添えない人が出てしまうのは残念である。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①行政が中心となった文化形成事業ももちろん重要であるが、コンペなどの方法で開花しつつある才能に支援する方法も考えられる。また一定の地域を「特区」として重点的に盛上げることも大切ではないか。(例えば「三百人劇場」をキーワードに文化復興させる街づくりなど)</li> <li>②中間層でも参加できるような日時、プログラムがもっと充実するとよいと思います。</li> <li>③「高尚文化・芸術」だけではなく、より日常生活に根付いた文化・芸術領域にも拡がるとよい。</li> <li>④コンピュータ・システムについては、個別の組織に閉じたシステムづくりをするのではなく、ウェブサイトに連動させて可逆性、発展性があるものにしていく必要がある。区役所や(財)文京アカデミーのウェブサイトとしっかり連動させていくことが課題として残る。</li> <li>⑤既に東京には文化芸術関連のイベントが集中していることから、例えば、障害者を対象にした催しや、子育て中の母親を対象にした託児付きのイベントなどを重点的に実施し、区独自の取組みの効果を上げていくことが望まれる。</li> </ol>

### 分野別目標 2 文化・芸術活動を豊かにするための情報提供・相談体制の整備・充実

評価	意見・要望	提案・課題等
<p>【肯定的評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>目標、基本的な方向性に沿った取り組みが進められている。</li> </ul> <p>【否定的評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>プロモーション活動が見られませんか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文京ではならでのネットワークづくりは大変評価できます。</li> <li>バラエティに富んだ様々な事業の紹介が多岐にわたって紹介されおり、情報量は十分である。</li> <li>区報やミュージズネット、ホームページ、掲示などにより情報を提供し、区民の興味や関心に応じて、参加できるような環境ができていてよいと思う。多くのさまざまな区民に知らせるためには、より一層の工夫が必要であると思う。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①趣味の手芸、絵画、書道、コーラスなど楽しむことから始め、自信がついてきたら発表の場がほしくなり、プロのアーティストの公演・活動に触れたいという道筋づくりに沿った取り組みがあるとよいのではないかと。</li> <li>②若い世代への情報提供を考える際、波及効果のあるフェイスブックなどのソーシャルメディアの活用は、欠かせないのではないかと。</li> <li>③区内の文化・芸術に優れた人材の登録(DB)の整備が必要。</li> <li>④媒体には様々な情報が満載であり、よりターゲット別に整理されていると読みやすいのではないかと。広報はHPや機関誌でもされているものの、ターゲット別アプローチがあると、より分かりやすいと思われる。</li> </ol>

### 分野別目標 3 「文の京」の文化や歴史を未来に伝える仕組みづくり

No.	意見・要望	提案・課題等
<p>【肯定的評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>目標、基本的な方向性に沿った取り組みが進められている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>森鷗外については、十分に行われています。</li> <li>文化芸術は現物に触れる以前に、その背景など学習していれば、より、現物の良さが分かります。</li> <li>現在推進中の資料等デジタル化の公開に期待。</li> <li>森鷗外記念館の開館により、貴重な鷗外にかかわる資料が保存・展示されることになってよかったと思う。</li> <li>森鷗外関連が突出しているが、今後はそれに限らず、文化・芸術全般にわたってバランスよく活動をしていく必要がある。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①区内の文化・芸術に優れた人材との連携を図る体制・体系を整備する。人材のパンフレットなどを作成しても面白いかもしれません。</li> <li>②アカデミアサポーター、生涯学習司、インタープリターの活動の場をもっと広げていただき、気軽に問い合わせができる窓口があるとよいと思います。</li> <li>③様々な事業が年中を通して実施されているので、横浜のJazz Festivalなど、ある一定期間を「文京区芸術week」とくり、集中的に実施し、インパクトをはかるなど。</li> <li>④森鷗外以外の人物(文京区出身の偉人)はいないのでしょか？</li> <li>⑤鷗外の研究者や専門家と連携し、内容を深めるとともに、来館者に内容を伝えていく知識を備えた人材、いわゆるガイドの育成も重要であると考えます。また、これをきっかけに、鷗外以外の文化や歴史にまつわる人々の資料などの発掘や開拓につなげられるとよいと思う。</li> <li>⑥文化芸術を楽しむ区民を増やすには、子供への取組みが効果的。既に多く取り組まれていると思うが、効果を検証し、幼児や小・中学生を対象とした取組みの充実が望まれる。</li> <li>⑦「歴史」という言葉があるように歴史ブームでもあり、そういう人たちは自分の知識を披露したいはず。ガイドの説明を聞くといった受け身のプログラムだけでなく、発表する場を設けると参加する意欲を高めるとともに、自分もガイドをめざそうと思うのではないかと。</li> </ol>

# アカデミー推進協議会委員の意見要望

## 第4章 観光

### 分野別目標 1 まちあるきを中心とした資源の発掘・活用・創出

評価	意見・要望	提案・課題等
<p>【肯定的評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文京区内の観光スポットを点でPRするのではなく、線でつなげて、回遊性を重視した観光ルートを作って普及させることが大切。その点で、区の取組みは評価できる。</li> <li>・資源の活用と創出は、各事業において一定の取組みや試みがなされている</li> <li>・目標、基本的な方向性に沿った取組みが進められている。</li> <li>・歴史的・文化的な資源を数多く有する観光コースや人材育成が数多く行われており、評価できる。</li> </ul> <p>【否定的評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現状維持という印象</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、事業企画してあるものもあるので、その事業に期待します。</li> <li>・4つの施策を進めていく方向性は正しいと思う。</li> <li>・観光振興に取り組む際、観光客の財布をいかにして開かせるかは重要なポイント。経済的なメリットがあって初めて地域が潤い、継続的な観光客誘致が可能になる。食べる、買う、体験するに関するブランド力を高めることは、良い取組みである。現在すすめている「食」について、成果が得られれば、様々な機会をとらえて、そのPR・売込みに注力していただきたい。</li> <li>・土産物開発には資源の発掘・活用・創出の効果が期待できるので、よりいっそうこの取組みを展開していくことが望まれる。</li> <li>・既に「文の京ミュージアムネットワーク」で検討されているかと思うが、博物館や美術館など他施設の年間スケジュールと連動した取組みなど、ネットワークの活用が期待される。</li> <li>・独自の観光事業は既に多くあることから、他の連携事業（東洋大学国際観光学科との連携のような）など、既存の組織と連携し、観光と一緒に盛り上げていく工夫が引き続き必要だと思われる。</li> </ul>	<p>①「文人銘菓」のみならず、当項目はブランド構築で、ブランド戦略には広告宣伝が欠かせない。例えば、「文人銘菓」については日経新聞の地域面で拝見したが、より徹底した情報発信が必要だと思う。</p> <p>②CS放送の時代劇専門チャンネルで「鬼平の街歩き」の様なツアー募集をしているのを見たことがある。江戸時代、明治時代、文学など特定の嗜好をもつ方が興味を持ちそうな媒体とのタイアップは考えられないか？</p> <p>③観光を学ぶ学生にまちあるきをしてもらい、その中で見つけた面白いもの、不思議なもの、もっと知りたいものを写真とともにメモしてもらい、それを地域をよく知る人たちが解説するというやり取りを通じて、外部の目線と地元の見聞のズレなどが明確になる。</p> <p>④ガイド8名育成とあるが、具体的にどの様に育成しているのか？</p> <p>⑤巢鴨の地蔵通り商店街になぜあれほど高齢者が集まるのか。歴史的なエリアの街歩き、にぎわいのある商店街など、いつ行っても人が集まり気軽に楽しめるスポットの発掘・創出に、地元の人や事業者などを巻き込んで区を挙げて取り組んだらいいと思う。</p> <p>⑥有名な観光スポットを結ぶだけでなく、新たな発見や、体験型の観光スポットを盛り込むなどの工夫が不可欠。さらに観光資源が豊富な近隣区との連携も欠かせない。近隣区に跨った観光ルートの創設など、連携の一層の促進が望まれる。</p> <p>⑦森鷗外著作の「青年」に登場する小泉純一が、鷗外が作ったとされる東京の地域地図をたよりに歩いたとされる経路をたどって文京区内を紹介することで、新たな観光コースや観光地の発掘ができると思う。</p> <p>⑧資源の発掘については現時点では十分とは言えないのではないかと。他の地域に比べて豊富な資源を有するために、その活用だけでも十分であるという考え方もできるが、特に「まちあるき」という視点に立った時には少なくともその再整理は必要である。季節や時間帯、目的に応じた資源の発掘と整理には計画的に取り組むべきである。</p>

### 分野別目標 2 まちあるきや交流のための環境づくり

評価	意見・要望	提案・課題等
<p>【肯定的評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・案内標識の検討会を開催しているのでそれに期待します。</li> <li>・よくらやれていると思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・案内盤の整備は整っている。今後は保守・整備で継続対応を評価する。</li> <li>・目的地近くには、わかりやすい案内があり、京都のように、遺跡近くに行くこと、遺跡情報が携帯端末などでもとれると便利だが、他県からは年配の来訪者が多いことから、需要が少ないうちから整備してほしい。</li> <li>・案内標識は、将来の交流のための環境づくりに不可欠であり、ガイドマップ、リーフレット、ウェブサイトなどの表記との一貫性などを点検しながらより充実させていくべきである。その検討が行われていることは評価できる。</li> <li>・エリア内での各種イベントは、地域住民同士の交流はもちろんのこと、住民と訪問者、訪問者同士の交流を促進するきっかけとなる。イベントを実施したり、助成したりする事業は必要である、今後も継続して展開されることが望まれる。</li> </ul>	<p>①イベントは、祭りだけでしょうか？他のイベントはないのでしょうか？</p> <p>②区内の名所・歴史を探究しながら、同好の士との出会いや交流を通して健康面のアピールができるというのではないかと。それには単なる街歩きから健脚者向けに初級～上級までのコース設定や、同行するガイドの育成も必要だと思う。</p> <p>③祭りなど、運営に興味をもっている学生がいれば、ボランティアで運営に参画してもらうなどの人的支援をしてはどうか。</p> <p>④区のコミュニティバス「Bぐる」は、観光と連動させたPRに努め、週末や休日には、観光ルートにめぐる臨時バスを走らせるなどの取組みはできないか。また、区内の回遊性を向上させるために、「Bぐる」や「レンタサイクル」の利用があげられているが、さらに、利便性を高めるために、例えば、「Bぐる」の観光用割引チケットや自転車の無料の貸し出しなど、工夫する必要であると思う。また、案内板や順路を示すコース、次の目的地までの距離などを表示するなどして、観光者が迷わないような配慮も必要である。</p> <p>⑤東大という国内有数のMICE開催機関をはじめ、区内にはコンベンション施設が多数立地していることから、区が掲げるMICE誘致は重要である。開催に合わせて、外国語版観光リーフレットを配布してもらうなど、簡単なことから取組み、実績を積み上げてほしい。</p> <p>⑥街歩きのポイントごとに拠点（立ち寄り所）を設けたらどうか。それは既存の建物を使えばいいし、お年寄りや子育て中のママさんが集え、文化の発表の場（飲食＋販売＋ライブハウス）となるような複合的なもので、地域のセンター的意味合いを持たせる。</p> <p>⑦体験型の観光コースがあると、中間層でも参加しやすいのではないかと。文京区には、老舗の店が多くあるので、そこでの体験学習等。ちなみに、京都では数珠作成コースが、中学生の郊外実習のクラスに組み込まれている。学校の郊外実習とのコラボなどあるとよいのではないかと。</p> <p>⑧イベントは開催したあとの反省、課題の整理などがおろそかになりがちのため、必ずそうした機会をもつことを徹底すべきである。</p>

## アカデミー推進協議会委員の意見要望

### 分野別目標 3 観光まちづくりのための情報発信

評価	意見・要望	提案・課題等
<p>【肯定的評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他分野に比べ、進んでいる</li> <li>・目標、基本的な方向性に沿った取り組みが進められている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区のツイッターと連動させたイベント情報の発信は良い取り組みだと思う。その効果を検証し、ソーシャルメディアの一層の活用を進めてもらいたい。</li> <li>・インターネット等を活用し、新しい情報発信がなされているので、大変よいと思う。また、メディアによる区のPRも実現に向けて推進されていることがよく分かる。</li> <li>・観光案内所やリーフレット、ウェブサイトなど、必須の項目については引き続き充実への取り組みが期待される。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①観光インフォメーションがシビックセンター1階にあることの周知はどの様にされているのか？</li> <li>②区HPにリンクした「区内観光案内HP」を設ける。</li> <li>③コミュニティFMによるきめ細かい情報発信が必要。</li> <li>④新聞、テレビ等のメディアとの連携が強化されるとよい。</li> <li>⑤観光案内所については、人びとが行き交う場所に設置して利便性を高めるべきなので、現状の形態が最良かどうか検討が望まれる。</li> <li>⑥リーフレットやウェブサイトについては、一般の訪問者を対象としたものはもちろんのこと、旅行者や学校等の団体の訪問者向けの情報提供という視点に立った情報発信が実現できているかを点検すべきである。</li> <li>⑦ウェブサイトの文言がお役所くさく、内容はよいのもったいない。写真も重要ではないか。もっと魅力的にできるはず。</li> <li>⑧区域によっては昔から続く祭りやイベントが下火になったように感じる。区内の季節ごとの「〇〇まつり」をもっと盛り上げ、区外にも発信して人を呼ぶ必要があるのではないかと。</li> </ol>

### 分野別目標 4 観光まちづくりのための人材育成と体制づくり

評価	意見・要望	提案・課題等
<p>【肯定的評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人材育成や体制づくりは時間と手間を要する取り組みである。23年度実績を見る限りあまり進捗していないように見えるが、効果を見定めながら、一步一步積み上げていってほしい</li> <li>・既に人材育成が継続して行われており、評価できる。今後とも積極的に実施し、接する機会を作るイベントなどの継続的な開催があるとよい。</li> <li>・観光ガイドの育成など人材育成の取り組みがあり評価できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアの観光ガイドは、無料で休日にも実施してくれるので、利用価値が高い事業であると思う。より多くの観光客に利用してもらえるように、PRを進めていく必要があると思う。</li> <li>・人材育成の裾野を広げ、今後の継続性を担保するためには、観光に関心を持つ住民を増やしていく必要がある。生涯学習のテーマのひとつとして地域の文化や歴史の整理を進め、それを来訪者に披露していくような取り組み等アカデミー事業との連携を強化することで、他の事業に携わる人びとに観光の重要性への理解を深められ、さまざまな協力を得る体制が可能になる。</li> <li>・小学生や中学生を対象に観光教育を展開し、まちの魅力の再発見や見え方の理解を進め、見せ方の工夫について考えるきっかけを作っていくことも重要である。子供の頃から地元に対する愛着をもつことで、一人ひとりがまちのセールスパーソンになることができる。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①CS放送の時代劇専門チャンネルで「鬼平の街歩き」の様なツアー募集をしているのを見たことがある。江戸時代、明治時代、文学など特定の嗜好をもつ方が興味を持ちそうな媒体の活用は考えられないか？</li> <li>②ボランティア観光ガイドの育成を継続してほしい</li> <li>③区外者向けミニ講座付きまつあるきコース向け観光ガイドの育成も図る。</li> <li>④街の面白さを多面的に伝えるためフリーハンドの公募提案型ガイドさんなどの制度があったら面白いと思います。「私だったら、ここここを案内して、ランチはここがおすすめ、スイーツはここが美味しい」などガイドさんによるパッケージ型街歩き、そして「センター」に立ち寄り文京区の良さを伝えます。</li> <li>⑤体制作りとしては、JR東日本以外にも多くの鉄道会社や旅行会社と連携し、企画を増やしていくとよいと思う。</li> </ol>

# アカデミー推進協議会委員の意見要望

## 第5章 国際交流

### 分野別目標 1 国際理解を進める機会づくり

評価	意見・要望	提案・課題等
<p>【肯定的評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国際交流フェスタ開催の継続を評価します。</li> <li>目標、基本的な方向性に沿った取り組みが進められている。</li> <li>よくなされていると思う。目標、基本的な方向性に沿った取り組みが進められている。</li> <li>おおむねよい</li> </ul> <p>【否定的評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現状維持という印象</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光との連携に期待。</li> <li>区民の国際理解を進めるには、地道に外国人と触れ合える機会を数多く設けていくことが最も効果的だと思う。学校行事や大学との連携等を通じて、外国人と触れ合う場の設定を一層進めてもらいたい。</li> <li>「受け入れる側」の区民、「情報発信する」側の区民の対応指針がなされていると思います。</li> <li>文京区には、92か国7,508人の外国人が登録しており、区民全体の3.8%を占めており、国際理解の促進に係るセミナー等、様々な取り組みがされており、評価できる。</li> <li>文京区には大学に通う留学生やアジア文化会館等に居住する若者など多くの外国人がいる。国際交流フェスタのように、その人たちと触れ合える機会を多く企画することで、国際理解や国際交流を推進することができると思う。</li> <li>大学(留学生)の協力イベント開催とPR強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①相互交流イベントをもっと開催すべきだと思う。</li> <li>②国際理解から交流、さらには参加へとつながるよう、講座参加者への事後フォロー事業などがあるとよい。</li> <li>③在日外国人の大半は、韓国、中国、台湾の人々なので、そのことをしっかり視野に入れた機会づくりがなされる必要がある</li> <li>④学校教育の中で、総合的な学習の時間を活用し、留学生が先生となって、異文化や芸能などを児童や生徒に直接指導するという機会があるとよいと思う。</li> </ul>

### 分野別目標 2 国際交流を進める機会づくり

36

評価	意見・要望	提案・課題等
<p>【肯定的評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現状維持という印象</li> <li>国際交流フェスタ開催の継続を評価します。</li> <li>目標、基本的な方向性に沿った取り組みが進められている。</li> <li>よくなされていると思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>以前は修学旅行の宿泊旅館や下宿屋さんが多かった地域で、最近はその外国のツーリストの宿泊施設として紹介されていると聞く。ホテルと違った日本式の旅館・下宿屋のよさをアピールして、おもてなしにつなげてほしいと思う。</li> <li>日本人としての区民とあまり距離を置かない姿勢が重要でありますので、「調和」を意識した地域主体の機会づくりが大切であると感じます。</li> <li>「国際交流フェスタ」やガイドツアー等の交流事業が継続的に実施されており評価できる。</li> <li>文京区には大学に通う留学生やアジア文化会館等に居住する若者など多くの外国人がいる。国際交流フェスタのように、その人たちと触れ合える機会を多く企画することで、国際理解や国際交流が推進することができると思う。</li> <li>英語観光ガイドツアーの実施は継続的に続けて行くべきだ。</li> <li>姉妹都市等、海外都市との交流の活性化:継続的に続けることが望ましい。</li> <li>国際交流フェスタは、あまり例のない興味を惹く大掛かりなイベントである。費用対効果を検証し、内容の充実を図りながら、今後も開催の継続が望まれる。また、公募したボランティアの今後の活用も検討してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①外国人が展示・発表する機会(場)を設けたらいいか。</li> <li>②相互交流イベントをもっと開催すべきだと思う。</li> <li>③今後国際交流に関する活動や情報収集の窓口として必要であるから、国際交流の基地をシビックセンター内に置いてほしい。</li> <li>④国際交流をより充実発展させるためにも、国際交流団体を早急に設立されたい。</li> <li>⑤養成した英語観光ガイドは、年数回の活動ではもったいない。語学力がしっかりしているのであれば、観光案内だけではなく、国際交流関連のイベント等にも活用するなど、活動の幅を広げてはどうか。</li> <li>⑥外国人のニーズ調査を行い、より多様なプログラム、ツアーが実施されるとよいのではないか。</li> <li>⑦フェスタの知名度を高めるため、親善大使(もしくはキャラ)をたてる等。メディアをひっぱりこめる文京区出身の著名人のボランティア活用等。</li> <li>⑧英語以外のガイドツアー(中国語、韓国語)があつてよい。</li> <li>⑨学校教育の中で、総合的な学習の時間を活用し、留学生が先生となって、異文化や芸能などを児童や生徒に直接指導する機会があるとよい</li> </ul>

### 分野別目標 3 外国人が快適に暮らせる環境づくり

評価	意見・要望	提案・課題等
<p>【肯定的評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>目標、基本的な方向性に沿った取り組みが進められている。</li> </ul> <p>【否定的評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現状では、環境づくりがされている印象を持ちません。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現行のイベント(国際交流フェスタ等)の内容充実での対応で良いのでは。</li> <li>基本はコミュニケーション・言語理解が重要であると思いますので、さまざまな場(前掲の学習、芸術、スポーツ、観光)における国際交流の相乗り、各種サインのユニバーサル化など複合で考えるのが良いでしょう。</li> <li>今後より活発な活動に期待したい。これこそ、大学との連携が重要になってくるのではないかと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①相互交流イベントをもっと開催すべきだと思う。</li> <li>②カイザーслаウテルン市との交流をより深めるため、民間団体、例えば文京ドイツ協会を立ち上げ、公式な交流と合わせて区民との交流を積極的に推進してほしい。</li> <li>③事業例として地域活動センターの活用が挙げられているが、進捗はいかがか。</li> <li>④既存の支援団体との連携の可能性の模索等。外国人へのアンケート調査を踏まえた、参加したい内容のプログラムの開発等。</li> <li>⑤外国人が快適に暮らせるようにするためには、生活に不自由さを感じさせないことが大事である。そのために、言語にかかわる支援、不安を感じさせない心の支援、買い物をしたり病院に行ったりするなどの生活の支援などを具体的に進める必要があると思う。</li> </ul>

アカデミー推進協議会委員の意見要望

第6章 分野別横断プロジェクト

評価	意見・要望	提案・課題等
<p>【肯定的な評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標、基本的な方向性に沿った取り組みが進められており、生涯学習、文化芸術、観光は複合する面もあることから、横断プロジェクトの促進が期待される。</li> <li>・指定管理者が入っている部署は活発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習とスポーツ、観光と国際交流などの連携によりたくさんのアイデアが出てくる印象も持ちました。もしくは、国際交流を基盤として、各事業と連携していくのも良いかもしれません。</li> <li>・アカデミー推進計画にとらわれない全庁的プロジェクトの必要性を感じました。</li> <li>・全体的には良いことをやっていますが、プロモーション不足という印象です。</li> </ul>	<p>①アカデミー推進計画の推進体制は、行政側の役割分担と一般区民が自主運営する主体的役割との基本的考え方を明示(PR)する必要がある。</p> <p>②手芸や木工など手作りを楽しむ人にとっては作品発表の場がほしいもの。展示即売という形だけではなく、空き店舗などを利用した区で管理する常設のショップを設ければ、自分の作品が商品になる喜びにつながり、さらにやりがいが出ると思う。</p> <p>③文京地域学は、毎年、市民や関係団体を集めて統一テーマを決め、それに基づいて各分野の取組みを考えてはどうか。そうすることによって、横串を通ず効果や魅力が増すのではないかと。また、対外的なアピール度も向上するものと思われる。</p> <p>④分野ごとに実施する事業は、集中して奥が深い内容について追求することができる利点があるが、ひとつのテーマに向けて、全分野が関連する部門を担当し、広げていくことも区民の豊かな生活への向上につなげる大切な視点であると考えます。特に、森鷗外記念館の開設を通じて、鷗外と関連がある地区である津和野、ベルリン、小倉、足立などとの連携・交流を図り、また、関連のある作家や歌人などの人物とのかかわりまで広げることで、生涯150周年事業をさらに深めていけるとよいと思う。</p> <p>⑤このカテゴリー自体の位置づけがはっきりしない。個別の活動はよいと思うが、バラバラ感が否めない。本来分野は便宜的なもので横断するのが当然なのだから、少し全体のなかでの位置づけを再検討すべきではないか。</p>

その他意見

評価	意見・要望	提案・課題等
<p>（対角線あり）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後は機会があれば出来る限り幅広く、各事業の現場を一つでも多く見られるように努力したく思っています。</li> <li>・今回の会議では配布資料が多く、事前にゆっくり目を通す余裕がありませんでした。次回より資料等が多い場合は、出来る限り事前に送付してもらえればと思います。</li> <li>・現在行われている事業について内容・費用（費用対効果）など再度検討し、必要不可欠なものを優先し、順位を付けての事業の推進</li> </ul>	<p>①文京区基本構想実施計画（平成23年度～平成25年度）3年間の事業費のうち平成23年度取組状況報告書による各事業支出の対比</p> <p>②現在行われている事業のうち、直ぐには効果が出なくても将来に亘って必要な事業（青少年育成事業など）には明確な目標を立て、それに対しての十分な費用の手当て。</p> <p>③各事業のより良い効果を上げるため、今回の委員のみでは補いきれない部分があると思われますので、年度末（適当な時期）に一度、現在実施されている事業全般について、現在の委員とアカデミー推進計画策定協議会で、生涯学習他それぞれの委員会に所属され計画策定に携わった方々にも参加してもらい、それぞれの現場の意見を広く伺う機会を作っては如何でしょうか（アンケートなどにより意見を聴く方法もあるのではと考えます。）</p>
<p>（対角線あり）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おおむね半数以下しか参加していないのは、事業そのものを知らない人が多いのではないかと。5年間にわたり推進する事業なのだから、今後参加者を増やしていくために「知らない」、「関心がない」人たちに周知し取り込んでいく方法を考える必要があると思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区民すべてが対象といっても、情報提供をすればアクセスしてくる人ばかりではないので、発信だけで終わらせずフォロー体制も必要だと思う。たとえばパソコンを使わない、区報を読まない人たちに対しては人を介した呼びかけをしたらどうか。</li> <li>・福祉や健康推進など他部署とも連携し、とくに家に閉じこもりがちな高齢者に仲間づくりの楽しさ、大切さを説きながら参加意識を高めていったらどうか。そういう取り組みから始めれば、最終的に事業の拡がりにもつながるのではないだろうか。</li> </ul>